

## 1. 略歴

- 1992年3月 東京大学文学部イスラム学専修課程卒業  
1992年4月 東京大学大学院人文科学研究科イスラム学修士課程入学  
1994年3月 同修了  
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科イスラム学博士課程進学  
1998年3月 博士（文学）の学位取得  
1998年4月 東京大学東洋文化研究所研究機関研究員（2000年3月まで）  
2000年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（2003年3月まで）  
2004年4月 神田外語大学外国語学部専任講師  
2008年4月 神田外語大学外国語学部准教授  
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 主要業績

#### (1) 著書(単著)

- 『イスマール派の神話と哲学：イスラーム少数派の思想史的研究』岩波書店、2005年12月、316頁。  
『イスラーム教：「異端」と「正統」の思想史』講談社（選書メチエ）、2009年8月、266頁。

#### (2) 論文

- 「ハミードゥッディーン・キルマーニーの知性論」『オリエント』第38巻第1号、1995年9月、45-60頁。  
「ファーティマ朝期イスマール派終末論の変容」『オリエント』第41巻第1号、1998年10月、95-109頁。  
「11世紀イスマール派における哲学的預言者論」『イスラム世界』第52号、1999年2月、1-19頁。  
「イスマール派の神話構造」『日本中東学会年報』第14号、1999年3月、57-84頁。

“Some Problems in D. De Smet’s Understanding of the Development of Ismā’ilism: A Re-examination of the Fallen Existent in al-Kirmānī’s Cosmology,” *Orient* 34 (1999), pp. 109-123.

- 「初期ドゥルーズ派における悪の原理」『日本中東学会年報』第16号、2001年3月、139-153頁。  
「初期ドゥルーズ派における輪廻思想とタキーヤの成立」『イスラム世界』第57号、2001年8月、1-20頁。  
「イスラーム・シーア派のメシア思想」『史潮』第50号、2001年11月、26-46頁。  
「シーア派思想研究とその問題点」『思想』第941号、2002年9月、136-153頁。  
「シーア派少数派における神観と他者認識」大貫隆・金泰昌・黒住真・宮本久雄編『一神教とは何か：公共哲学からの問い』東京大学出版会、2006年3月、367-390頁。  
「イスマール派教宣員とイマームの帝都カイロ」『アジア遊学』第86号、2006年4月、34-44頁。  
「ハムザ書簡群に見るドゥルーズ派終末論の形成過程」『東洋文化』第87号、2007年3月、65-84頁。

“The Philosophical Prophetology of Ismā’ilism in the Eleventh Century,” *Orient* 44 (2009), pp. 3-17.

- 「イスマール派の神話」竹下政孝・山内志朗編『イスラーム哲学とキリスト教中世 第3冊 神秘哲学』岩波書店、2012年1月、67-90頁。

“The Resurrection of The Ismā’īlī Myth in Twelfth-Century Yemen,” *Ishraq* 4 (年刊、2013年刊行予定)。

#### (3) 受賞

- 第21回日本オリエント学会奨励賞（日本オリエント学会）、1999年10月。「ファーティマ朝期イスマール派終末論の変容」及び“Some Problems in D. De Smet’s Understanding of the Development of Ismā’ilism”に対して。  
第15回中村元賞（宝積比較宗教・文化研究所）、2007年3月。『イスマール派の神話と哲学』に対して。

#### (4) 辞書等の項目及び小論

- 「イスマール派」ほか、全51項目 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年2月。  
「ガザリー」、「サファヴィー教団」、「タワックル」、「マカーマート」、「靈魂」、「ネオスーフィズム」片倉もとこ編集代表『現代イスラーム事典』明石書店、2002年3月。  
「イスマール派」、「ドゥルーズ派」、「サービア教徒」日本イスラーム協会編『イスラーム事典』平凡社、2002年3月。  
「ビールーニー『インド誌』」岡本さえ編著『アジアの比較文化：名著解題』科学書院、2003年3月、20-23頁。  
「ナーセル・ホスロウ『旅行記』」岡本さえ編著『アジアの比較文化：名著解題』科学書院、2003年3月、24-27頁。

- 「異教徒」、「異端」後藤明・山内昌之編『イスラームとは何か』新書館、2003年8月、26-27, 58-59頁。
- 「聖地」、「礼拝」、「経典」、「断食」、「輪廻」、「六信五行」岸本美緒責任編集『歴史学事典 11：宗教と学問』弘文堂、2004年2月。
- 「コーラン」、「イスラーム法」、「ウンマ」井上順孝編『現代宗教事典』弘文堂、2005年1月。
- 「ルイス、バーナード『暗殺教団：イスラームの過激派』」、「菊地達也『イスマール派の神話と哲学：イスラーム少数派の思想史的研究』」島藺進ほか編『宗教学文献事典』弘文堂、2007年12月。
- 「シーア派」小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、2008年7月、110-116頁。
- 「アラウィー／ヌサイリー派」世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年12月。

(5) 翻訳

- イフワーン・アッサファー著「イフワーン・アッサファー書簡集」上智大学中世思想研究所・竹下政孝編訳・監修『中世思想原典集成 11：イスラーム哲学』平凡社、2000年12月、197-262頁（原語アラビア語）。
- キルマーニー著「知性の安息」上智大学中世思想研究所・竹下政孝編訳・監修『中世思想原典集成 11：イスラーム哲学』平凡社、2000年12月、263-337頁（原語アラビア語）。
- マリズ・リズン著『イスラーム』岩波書店、2004年3月、242頁（原語英語）。
- アダルベルト・アギーレ・ジュニア、ジョナサン・H・ターナー著（神田外語大学アメリカ研究会訳）『アメリカのエスニシティ：人種的融和を目指す多民族国家』明石書店、2013年1月、385-424頁（「第9章 アラブ系アメリカ人」を担当、原語英語）。

(6) 書評または新刊紹介

- 「P. ウォーカー著<初期の哲学的シーア派思想——アブー＝ヤークーブ・アッシジスターニーのイスマール派的ネオプラトニズム>」『イスラーム世界』第45号、1995年6月、97-102頁。
- 「子島進著『イスラームと開発：カラーコラムにおけるイスマール派の変容』」『イスラーム世界』第59号、2002年8月、95-99頁。
- 「ワイル・ハッラク著『イジュティハードの門は閉じたのか?』」『オリエント』第47巻第1号、2004年9月、189-190頁。
- 「大川玲子著『聖典「クルアーン」の思想』」『オリエント』第47巻第1号、2004年9月、190-191頁。

### 3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1999年4月  | 東京学芸大学教育学部（1999年9月まで） |
| 1999年4月  | 国土館大学文学部（2004年3月まで）   |
| 1999年4月  | 駒澤大学仏教学部（2007年3月まで）   |
| 2000年10月 | 東京学芸大学教育学部（2001年3月まで） |
| 2001年4月  | 東海大学文学部（2001年9月まで）    |
| 2002年4月  | 東京大学文学部（2013年3月まで）    |
| 2013年4月  | 神田外語大学外国語学部（現在に至る）    |

(2) 学会

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| 1999年4月 | 日本イスラーム協会運営委員（現在に至る） |
| 2004年4月 | 日本オリエント学会編集委員（現在に至る） |